井上　陽介講師

演題『審美・機能を考慮した補綴物製作』

歯科治療に携わる歯科技工士として、まず、患者の満足を得ることのできるような補綴物を製作し、それが口腔内において少しでも長期にわたり維持されたいと考える。
そのためには、製作した補綴物が審美的であることは言うまでもないが、それだけではなく機能性を有していることが重要であると考える。
だが、それらを達成するためには、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の三者が共通の認識のもと治療が進められることが大切となってくる。
そこで今回、それらの認識に基づき行った臨床例を通じ、提示させていただきたいと思う。

藤井　未来講師

演題『女性が歯科技工士を続けるために』～女性歯科技工士と共に働くみなさんへ～

近年、若い歯科技工士が減少している中、女性歯科技工士の割り合いは増加傾向にあります。
少し前は「雇いづらい」「育てにくい」と敬遠されてきた女性歯科技工士の労働力も軽視できないものになってきました。本来、歯科技工は女性にとても向いている仕事だと思います。
しかし、多くの女性歯科技工士・経営者ともに「続け方」「雇用の仕方」を模索しているのが現状だと思います。今回、歯科技工士として 18 年子供が生まれてからは 8 年の私のたどった歯科技工職歴を軸に、産休・育休、保育園、職場復帰後の働き方、会社に協力してもらったこと並び卒後教育機関、悩みと転職、これからの働き方や思いなどなど多くの若い女性歯科技工士の皆さんが、漠然と不安に思っていることや共に働く会社の同僚・社長に知っておいてほしかったことを私の経験を通してお話しさせていただきます。女性に限らず、若い歯科技工士の方や経営者の方にもそれぞれの「続け方」「学び方」「育て方」「雇用の仕方」の道を見つけ出すヒントとなれば幸いです。

日技認定講師　佐藤幸司先生

「クラウンにも役立つ臨床総義歯学のポイント Part2」

歯科治療における補綴物の種類とその用途は多種多様では、とりわけ無歯顎者の補綴においては、咀嚼機能、発音機能、また審美や顔貌との調和を要求される。言い換えれば、失われた身体機能を補う人口臓器としての役割が求められる。
それゆえに有床義歯製作の目的は、義歯の安定や機能性、審美性をいかに確保するかを主眼として、また咀嚼筋、顎関節、中枢神経を含めた咀嚼系機能をよく理解し、生理学的機能的咬合の構築と生体に調和した活力のある咬合状態、顎位、咀嚼筋群、歯槽粘膜、顔面表情筋等を回復へ導くことができる歯科技工士が大切である。
これらの目的を達成するために、また患者さんにとってより良い補綴物を提供していくためには、私たち歯科技工士が補綴物製作の各工程における基本的コンセプトを確実に理解し、それを臨床に生かしていく姿勢と努力が重要になると考える。
そこで今回は、医療先進国で多く行われている B. P. S. (生体機能補綴システム) のコンセプトからチェアサイドとラボサイドのリレーションについて、根拠ある歯科技工、エビデンスを求めた臨床技工を述べたいと思う。
時間の許す限りディスカッションも交え、有意義かつ実りのある研修会としたい。